

の悪化などの深刻な事態を引き起こしている。いまや砂漠化防止が緊急に取り組むべき重要問題として国際的な注目を集めるようになってきている。

従来、砂漠地域はその厳しい自然条件ゆえに、地球の陸地で広大な面積を占めているにもかかわらず地球科学的観測の不十分な地域であった。今後、砂漠化の地域の拡大が進むと広域的な気象や気候にも重大な影響が出てくる可能性がある。砂漠化現象の原因とメカニズムを地球科学的に解明し、砂漠化防止のための具体的提案を行

うことも、地球科学が社会に対して果たすべき役割の1つであると考え、砂漠化機構の解明に積極的に取り組み、国際的要請に答えて行きたい。そのため、当研究室で従来培ってきた地球化学、海洋光学、海洋力学に関する知識と技術をバックグラウンドとして、新たな重要研究課題として、砂漠における物質循環、地表状態の遠隔計測、砂輸送の研究を進める。

(理化学研究所主任研究員・東大理学部教授)

### 日本気象学会および関連学会行事予定

行事名	開催年月日	主催団体等	場所	備考
第13回レーザーセンシングシンポジウム	平成元年10月2日 ～3日	同実行委員会	九州大学	Vol. 36, No. 4
日本海洋学会	平成元年10月2日 ～6日	日本海洋学会	つくば	
日本地球化学学会	平成元年10月3日 ～5日	日本地球化学学会	東大駒場	
第39回科学講演会	平成元年10月4日	東レ科学振興会	東京よみうりホール	Vol. 36, No. 8
地球電磁気・地球惑星圏学会	平成元年10月11日 ～13日		神戸大学教育学部	
第27回粉体に関する討論会	平成元年10月18日 ～20日	同委員会	千葉市民会館	Vol. 36, No. 5
日本雪氷学会	平成元年10月28日 ～30日	日本雪氷学会	弘前文化センター	
都市気候・建築・計画に関する国際会議	1989年11月6日 ～11日	日本気象学会, 日本建築学会 WMO, IFHP, IGU	京都国際会館	Vol. 36, No. 8
日本気象学会平成元年度秋季大会	平成元年11月7日 ～9日	日本気象学会	パシフィックホテル沖縄	Vol. 36, No. 5
大気汚染学会	平成元年11月9日 ～11日	大気汚染学会	川崎市立産業文化会館	
日本地理学会	平成元年11月11日 ～14日	日本地理学会	奈良大学	
月例会「レーダー気象」	平成元年11月28日		気象庁	Vol. 36, No. 7
環境科学学会	平成元年11月29日 ～12月1日		虎の門パストラル	
日本風工学会	平成元年11月30日 ～12月1日	日本風工学会	東京大学	
リモートセンシング学会	平成元年12月5日 ～7日		東京芝機械振興会館	
第36回風に関するシンポジウム	平成元年12月6日		筑波大学大会館	Vol. 36, No. 6
国際シンポジウム Assimilation of Observations in Meteorology and Oceanography	1990年7月9日 ～13日	WMO	フランス, Clermont-Ferrand	Vol. 36, No. 3
西太平洋地球物理会議	1990年8月21日 ～25日	AGU	金沢	Vol. 36, No. 6